

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：15501

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K20525

研究課題名（和文）ラオスにおけるコモンズ研究の再検討：SESアプローチによる実証

研究課題名（英文）Review on the study of the Commons in Lao PDR

研究代表者

森 朋也（Mori, Tomoya）

山口大学・教育学部・講師

研究者番号：30757638

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究成果は大きく三つ挙げられる。はじめに、本研究は、SESという分析フレームのなかで整理された変数に着目することで、分野横断的な視点から分析し、これまでの先行研究では行われてこなかった、統計手法を使った定量的研究ができた。つぎに、観光における社会的ジレンマをコモンズの視点から分析した。この研究では、特定の資源だけではなく、広い意味での自然環境や地域社会においてもコモンズの視点から分析ができるということを示した。最後に、国境を越えた資源の移動とコモンズの関係について分析した。従来、閉じた地域のなかでしかとらえられていなかったコモンズの研究に対して一定の示唆を与えることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、コモンズの理論的分析を基礎に実証的なアプローチをしている点で学術的にユニークな研究であり、その成果は社会的な意義がある。途上国における資源保全・保護は、海外援助やNGO/NPOのプロジェクトなどによって数多く実施されている。その中で、コミュニティ開発が行われる。しかし、その成果はピンからキリまであり、コモンズの研究は、このような開発援助においても必要視されている。この点で本研究の成果は、たんに学術的な意義だけではなく、実社会においても意義のあるものであるといえる。これまでの定性的な研究は数多くあるが定量的な研究は少ない。

研究成果の概要（英文）：This research can show three findings. Firstly, it conducted quantitative analysis for the study of a commons in Laos by using statistical methodology based on SES analysis. This point is the contribution to this field in that previous surveies have not done well. Secondly, this research analyzed a social dilemma on the tourism in terms of the theory of the commons. It can show that the study of the commons is able to apply not only to the specific resource but also broadly to natural environment and regional society. Finally, this study demonstrated the relationship between the commons and the transborder trading of resources. This topic has not been studied well before. In that point, It can contribute to this field.

研究分野：経済学

キーワード：ラオス コモンズ SES 社会関係資本 社会的共通資本

### 1. 研究開始当初の背景

東南アジアのラオスにおける土地・資源政策は、一般的に施策される、土地の境界線を設定して利用権を個人に割り当てる私的な資源管理、国立保全地域の制定のような公的な資源管理だけではなく、地域コミュニティの伝統的な資源利用や公平性にも配慮した、コミュニティ主導の共的な資源利用(コモンズ)も法的に認めている。こうしたコモンズを維持する施策は、しばしば、近代的な土地・資源政策と対立が生じるため、ラオスの事例は、コモンズ論において興味深いものである。従来の研究は、コモンズという概念は共有している一方、林政学、地理学、経済学など、異なる分野から進められてきた。このため、本研究の学術的背景として、当ラオスのコモンズ研究は、研究視野や手法が統一されておらず、また、異なる地域の事例について比較研究すること困難な状況にある。この結果、ラオスのコモンズ研究成果が持つ他国の事例と比べた、独自性が明確となっていない。

申請者は、これまで、ラオス中部におけるコミュニティベースな資源利用・管理のプロジェクトについて研究を進めてきた。その一方で、それらの調査対象地域の特徴や課題を明らかにするため、あるいは、それらの成果の一般化を図るためには、他の研究成果との比較研究が求められる。しかし、各学問分野で研究視野や手法が異なるために、共通の土台が必要である。そこで、コモンズを分野横断的に研究するために設計された SES のフレームワークを用いて、より包括的にラオスにおけるコモンズ研究を進めるに至った。

### 2. 研究の目的

本研究の学術的「問い」は、これまでのラオスにおけるコモンズ研究成果の共通性は何であるのか、また、他国の事例と比べて、ラオスにおけるコモンズ研究成果の特異性は何であろうかということである。この「問い」を明らかにするためには、これまでの研究成果について、統一性をもった研究手法を用いて、分野横断的に、より包括的に分析する必要がある。そこで、本研究では、コモンズを分野横断的に研究するために設計された社会・生態系システム (Social - Ecological System: 以下、SES) というフレームワークを用いる。

以上から、本研究の目的は、これまでのラオスにおけるコモンズ研究を SES のフレームワークを用いて再検討し、それらの研究成果の共通性(一般性)を明らかにし、加えて、他国の事例との比較研究を通して、ラオスにおけるコモンズのガバナンスの特徴を明らかにすることである。

### 3. 研究の方法

もともとの計画では、申請者が現地調査を中心にデータを収集して分析を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症の関係で、ラオス国内の移動の規制、渡航自体の困難さがあったために、過去にとったデータとラオス国立大学の共同研究者が収集したデータを用いて、定量的な分析を行った。

申請者は、ラオス国立大学林学部の Viseuy Indavong 氏には現地調査の協力と調整を、ラオス財務省国税局国際協力部の Canda Sinpaseuth 氏には、ラオスの貿易、密猟・密輸に関する情報とデータの提供をお願いした。彼らの知見は、周辺国からの社会経済的影響を知る上で重要である。

具体的な研究の工程として、はじめに、コモンズの理論研究や SES の先行研究から、ラオスの森林政策に関する定性的な分析を行う。加えて、それらの定性的な研究にもとづいて、注目すべき変数を抽出し、つぎに分析手法を決定して統計分析を行った。

### 4. 研究成果

本研究の主な成果としては、以下の ~ が挙げられる。

まず、論文 について説明したい。上述したように定性的な分析や SES の議論をベースに、コモンズの維持管理には、社会関係資本(いわゆるソーシャルキャピタル)が重要であることが知られている。そこで、論文 では、コモンズの維持管理への参加度に社会関係資本の変数がどのような影響があるかを重回帰分析で検証した。その結果、リーダーへの信頼度が大きな影響を持つことが明らかになった。

この研究の成果を踏まえて、より包括的な理論的検討を行ったものが論文 である。社会的共通資本の理論的視座から、ラオスの森林政策が地域のコモンズに対して、どのような影響をもったかを検討した。その結果、政策として、森林のコモンズをつくり出したこと、その管理のためのガバナンスをつくりだしたことは意義があった一方で、地域住民の持つ柔軟な自然環境への知恵や社会関係を阻害している可能性があることが明らかになった。

以上の研究は、中部地域を中心とした現地調査の研究が主であるが、ラオス国立大学の Viseuy Indavong 氏との共同研究として、北部地域の実証研究も進めた(論文 )。この研究においても、これまでの共通した理論的視座、分析スコープを用いた。

その他にも、SES の視点からラオスのコモンズ研究に対して一定の貢献を行うことができた。

論文 については、ラオスに隣接する中国とベトナムにおける森林政策がラオスの資源利用に影響を持つことを示した。この二カ国は、近隣国と比べると森林や自然資源に厳しい規制を設けている。その結果、比較的資源の規制とその執行が緩い(つまり、コモンプールの状況である)ラオスからの資源輸出が多くなる。もちろん、それに対する制度設計はなされているが、違法な取引が行われていることを税関局が保有しているデータから明らかにした。

論文 については、観光地におけるコモンズの研究を理論的に整理した。ラオスは観光地として有名であり、たびたび、観光開発による自然破壊や地域住民とのトラブルが指摘されてきた。観光地をコモンズの視点から分析した研究はすでにあっただが、それらは観光の部分的な事柄しか取り上げておらず、包括的な分析がなされてこなかった。そこで、本研究で用いたコモンズの分析を応用して、観光の社会的ジレンマを分析した。ただし、こちらについては、データに限りがあり、実証研究はできなかった。しかし、その含意は、ラオスのコモンズ研究に一定の貢献は期待できる。

森朋也(2020)「ラオスにおける村落共有林のガバナンスと社会関係資本の関係性」中央大学『経済研究所年報』第52号、195-215頁。

森朋也、金承華、シンパサー・カンダ(2020)「ラオスと近隣諸国による広域的な森林ガバナンスの構築」, Journal of East Asian Identities, 57-66頁。

森朋也(2021)「観光における「共有地の悲劇」問題について」, 山口大学教育学部『研究論叢』第70巻、69-77頁。

森朋也(2022)「社会的共通資本から見た村落共有林の役割:ラオス中部における事例研究」, 山口大学教育学部『研究論叢』第71巻、71-78頁

Viseuy indavong, Tomoya Mori (2022)“Community Participation in Upstream Forest Management –A Case Study in Houaphan Province, Lao PDR–,”Institute of Economic Research Chuo University Discussion Paper, No. 364.

以上の研究成果を踏まえて、本研究全体の統括と残された課題についても示したい。

はじめに、本研究は、これまで特定の分野で分析されていたラオスのコモンズ研究を、SES という分析フレームのなかで整理された変数に着目することで、分野横断的な視点から分析した点で意義がある。実際に、社会関係資本や社会的共通資本など、経済学の枠を超えた分析が行われた。また、これまでの先行研究では行われてこなかった、統計手法を使った定量的研究ができた点も注目に値する。

加えて、観光に関する研究では、特定の資源だけではなく、広い意味での自然環境や地域社会においてもコモンズの視点から分析ができるということを示した点においても新しい知見が得られたといえよう。

さらに、国境を越えた資源の移動について分析した点は、従来、閉じた地域のなかでしかとらえられていなかったコモンズの研究に対して一定の示唆を与えたように思える。現実には、そのような外部世界は、コモンズの利用と管理に英居を与える大きなファクターである。実際に、SES のフレームワークでもその点は触れられている。

ただし、この点は、本研究の残された課題ともいえる。それは、隣国に関する分析の浅さである。もちろん、申請者は、ベトナムや中国の専門家ではないので、その分析には限りがあるが、国境を越えた資源移動と地域におけるコモンズの関係は残された課題として挙げられる。むしろ、中国やベトナムの専門家との共同研究を通して、検討されるべき点であろう。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 森朋也	4. 巻 71
2. 論文標題 社会的共通資本から見た村落共有林の役割：ラオス中部における事例研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山口大学教育学部研究論叢	6. 最初と最後の頁 71 - 78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Viseuy indavong, Tomoya Mori	4. 巻 364
2. 論文標題 Community Participation in Upstream Forest Management A Case Study in Houaphan Province, Lao PDR	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Institute of Economic Research Chuo University Discussion Paper	6. 最初と最後の頁 1 - 14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 森朋也	4. 巻 70
2. 論文標題 観光における「共有地の悲劇」問題について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山口大学教育学部研究論叢	6. 最初と最後の頁 69 - 77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 森朋也	4. 巻 1
2. 論文標題 山口県における観光需要の季節変動性とその要因について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 山口学研究	6. 最初と最後の頁 20 - 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森朋也	4. 巻 (52)
2. 論文標題 ラオスにおける村落共有林のガバナンスと社会関係資本の関係性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中央大学経済研究所	6. 最初と最後の頁 195 - 215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 森朋也・金承華・シンパサート・カンダ	4. 巻 5
2. 論文標題 ラオスと近隣諸国による広域的な森林ガバナンスの構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of East Asian Identities	6. 最初と最後の頁 57-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森朋也	4. 巻 42(3)
2. 論文標題 インバウンドがもたらす地域社会の変容：多文化共生の視点に立った地域づくり	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 計画行政	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 森朋也
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症と観光 - 観光移動の変動パターン分析と観光政策 -
3. 学会等名 2020年度秋季大会日本応用経済学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoya MORI
2. 発表標題 Cross border trade and the relationship between Laos policies and those of other countries
3. 学会等名 第17回 アジア太平洋カンファレンス
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<a href="https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=13799&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=21">https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=13799&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=21</a>
---

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ラオス	ラオス国立大学		